

2006 四季のコンサートだより

2006年10月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 〒430-0904浜松市中沢町44-11

電話連絡 (053) 473-3579(原)

e-mail: hamatomo@palette.plala.or.jp
http://www6.plala.or.jp/hamatomo/

旅の愉しみ

ギタリスト 福田進一

演奏家というのは、人もうらやむ職業らしい。「年中、旅行が出来て良いですね、いつも観光出来て…」と言われる事が多い。

実際、20数年のキャリアのなかで数多くの旅を続けてきた。ギターという楽器が世界中で親しまれているおかげで、普通は訪れる事のない中南米や中近東の国々にも旅をした。ギターのおかげで書いたのは普通のクラシック演奏家の場合、その活動のほとんどが地球の北半球の、そのまたヨーロッパ大陸と北アメリカ大陸に限定されてしまうからである。赤道を超えて南半球に旅をする人はほとんどいない。それを思うと、なるほど僕の職業は実際にいろんな所に行けて楽しい良い職業なのかもしれない。しかし、たいていの旅がそうだが、飛行機に乗っている10数時間の長旅の後には、空港からホテル、現地マネージャーとの打ち合わせ、休息、演奏会場に到着、リハーサル、コンサート本番、サイン会、打ち上げ、ホテル、空港という一連のプロセスという流れがあって、現実には滅多に流れに逆らえないのである。「ちょっと本番前にディズニーランドに行ってくるわ。」とお出かけになった某巨匠がおられるらしいが、僕はそういう大物ではない。特に若い頃は流れに逆らえなかった。湾岸戦争の前、1986年に初めてイスラエルを訪れた時など、日本から丸一日近くかかって到着。2時間の休息の後、ラジオ局、取材、即演奏会という凄まじいスケジュール……結局、何を観る余裕もなく帰ってきた。いや、実際にはその後10日間近くいて、5回の演奏会を行い、死海も行ったし、嘆きの壁もさわってきたのだが、今となっては記憶の彼方にぼんやり霞んでしまっている。ギターというのはソロ楽器だから、たいてい一人旅が多いのだが、たまに連れがいると旅の印象もがらりと変わる。で、二度目のイスラエルはフルートの工藤重典

さんとの旅だった。工藤さんのお茶目な性格を御存知の方は多いと思うが、僕と一緒にとなると相乗効果あいまって、いつも弥次喜多珍道中と化す。イスラエル・ツアーの間、ダジャレ合戦でほとんど笑っていたのと「シシカバブ」の味だけが記憶に残っており、実はこれまた一緒に観光を楽しんだ確かな思い出がない。困ったものである。だが、ちょうどその頃からだと思うが、旅の愉しみ=食の悦びと、感じ方が変化していった気がする。

それから20年、各地でのコンサート経験に大きな喜びを見出す演奏生活のかたわら、愉しみは「食べる事」に集約され、中には唯一の旅の記憶が食事などという国も出てきた。気になる体重は確実に年1キロずつ増加を続け、最初は59キロだったのが…。ああ、考えるとめまいがしてくる。このように書くと、さぞかし美食健啖家なのだろうと思われるが、必ずしも「美味しかった」だけが旅の記憶として残るのではない。美味しかったというのは脳が満足しているから案外忘れやすいなあと思う。その点、あれは「不味かった」には種類があり「臭かった」「見た目がヒドかった」「食感が気持ち悪かった」というのも、それぞれなかなか楽しくていい。例えば、台湾には20回ほど行っているが、皆さんは「臭豆腐」を御存知だろうか？落語に出てくる「ちりとてちん」である。最初は「なんじゃあ、これは！」という衝撃的な不味さ。簡単に言えば、くさやの匂いのする、腐った豆腐である。こんなもん食えるか！十数年前は喉を通らなかった食べ物、それが…今や僕の好物なのである。オーバーな言い方だが、「不味い」が「美味い」に変化する、このような過程は人生において感動的である。この8月は2週間の台湾ツアー。この臭豆腐をはじめ、ご存知の小籠包などの飲茶の数々（もちろん、これは当たり前前に美味い）を堪能した。

さて、今秋は10月に上海の音楽院で教え、11月にはパリでリサイタル、来春はドイツでニュー・イヤーズと続く。今から僕の頭の中は「上海ガニ」やパリ名物「生牡蠣」への限りない欲望が渦巻いているのだ。

最後にとどめを書くが、もちろん浜松の「うなぎ」は、いつでも大歓迎。ウーン、やはり人もうらやむ職業に違いない。



四季のコンサートを終えて

先日は、コンサートに出演させていただき本当にありがとうございました。

地元浜松でのリサイタル、多くの方々にお越し頂いてうれしい気持ちでいっぱいでした。また、私が安心して演奏に集中できたのも、音楽友の会のスタッフの方の温かいサポートがあったからです。いろいろな面で支えて下さったスタッフの皆様には、本当に感謝しております。私がこのお話を頂いたのは、ちょうど私の22歳の誕生日でした。教育実習の真っ最中に母からメールが届き、弾かせて頂けることを知り、とても素敵なプレゼントをもらった気がして嬉しかったことを今でもよく覚えています。そして、演奏会当日までの様々な予定の中に“リサイタル”という目標を新たに加え、今自分に出来る事を精一杯頑張ろうと思いました。



音楽友の会と私

今からちょうど10年前。1996年の春、私はあるヴァイオリニストの演奏が聴きたくてチケットを求めに行ったところ、そのコンサートは低価格で質の良い演奏を楽しめる「四季のコンサート」の企画の一つであったことを知りました。その場で入会させていただいたのを機に、現在までさまざまな企画を楽しませていただいております。それにしても、この価格で計画を進められるスタッフの皆様のご苦労はいかばかりかと想像いたします。私は、2歳で失明しましたので演奏者の衣装や仕種が楽しめませんし、楽器を弾いたこともないというまったくの素人ですが、ただ、はまホールはやさしく、暖かな響きに魅せられて、さまざまな形式の演奏との出会いを心待ちに出かけております。

ヴァイオリニスト 小杉 結



私は、コンサートのプログラムの組み方はとても重要だと思っています。今までいろいろな方に、「この曲好きだわ。」とか「あの曲が聴きたいわ。」などと言われ、その度にもっと楽しんでもらいたいと強く思うようになりました。でも逆に私のほうにも「この曲を聴いていただきたいのだけれど…」という心の中での葛藤もあり、それらのバランスが難しかったです。そして、熟考した結果今回のプログラムとなりました。お楽しみいただけでしょうか？それぞれの曲に違ったキャラクターがあり、情景があり……勉強していて様々な発見があり、またそれらに感動し常に新しい気持ちで取り組むことができました。

コンサートを終えて強く感じることは、音楽の持つエネルギーは素晴らしいということです。音楽は、初対面の人とでもコミュニケーションを図ることができる、言葉のいらぬ“コトバ”なのだと思います。言葉がないからこそ、演奏者の強い想いが必要になってくるのです。もっともっと曲の深いところ、音楽の奥深くまでを追求し表現の幅を増やせるよう、様々な角度からアプローチしていきたいと思います。

このコンサートが新たな一歩となりますよう……。

友の会会員 市川健悟

最近の私のお気に入りの場所は、演奏者の生々しい息遣いや弓遣いの様子が伝わってくるような最前列に近い所です。そこへ、演奏者からの語りかけがあればさらに親近感が増しますので、曲の説明や聴きどころ、思い入れなど少し聞かせていただくとそれは、マイアルバムに保存され、次回その曲にめぐり会ったときに、その情景がありありとよみがえってきます。

もう一つ、名曲のフレーズが聴こえてくると何かほっとします。私のような者のために耳慣れた曲のサービスも是非お願いしたいところです。

アナログ的な柔らかな音に包まれる至福の2時間。そんな安らぎの空間に向かって、私はこれからも足を運んで行きたいと思います。

高1 加茂貴星

音楽を聴く。その中でも演奏を「生」で聴くというのは大事なことなんだ。このごろ少しずつ分かってきた気がします。

小さい頃（今でも十分子供だと言われそうですが）、僕にとってクラシックのコンサートは心地良い睡眠の時間でした。素晴らしい演奏を聴きながら夢の世界へ……。もちろん毎度毎度ではありませんが、そんな贅沢でもあり、失礼なことをしていたのです。

けれども、それからもう少し大きくなった今、コンサートの楽しみ方も次第に変わってきました。今の僕にとってコンサートは、他のものでは代えがたい「非日常への小旅行」であると思います。「今日はコンサートを聞きに行くんだ。楽しみだな」という気持ち、ウキウキした気持ち。言葉に出来ませんが、とても良い気持ちです。小学校の遠足に行く前のような、緊張感も混じった期待感。照明が暗くなり、演奏者が出て来ます。その後は言うまでもないでしょう。良い演奏を聴いた後の満足した

気持ちも、言葉に出来ないけれども、とても良いものです。

先日の小杉さんのコンサートでも、有意義な時間を過ごすことが出来ました。明と暗、静と動の対比が素晴らしかったブラームス。ヴァイオリンという一つの「箱」から出てくる多彩な、緊張感を持った響きに息を飲んだバツハ。他の曲も聴き入ってしまいました。

また、このコンサートでは、感動と同時に大きな期待も感じる事が出来ました。

僕も団員の一人であるジュニアオーケストラ浜松は、小杉さんと9月18日共演をする予定です。尊敬するオーケストラの先輩でもある小杉さんの生の演奏に触れ、一層やる気も高まりました。

このようなコンサートを企画して下さった四季の会の皆様、ありがとうございます。

これからも「生」の良い音楽をたくさん聴いていきたいと思っています。

これからのコンサート予定

秋

フレディ・ケンプ ピアノリサイタル

11月9日(木) 6:45 PM

1977年、ドイツ人の父と日本人の母のもと、ロンドンで生まれ、8歳でロイヤルフィルとの共演でデビュー。第3回浜松国際ピアノコンクール入賞後、1998年チャイコフスキー国際コンクールで第3位および聴衆賞を受賞し、一躍注目を浴びる。現在は世界各国で演奏会、著名オーケストラと共演、また録音でも益々活躍の場を広げています。今秋開催の第6回浜松国際ピアノコンクールを目前に、大きく成長した若き巨匠の演奏をお楽しみください。

プログラム

ベートーヴェン/ピアノソナタ 第29番 変ロ長調 Op.106 〈ハンマークラヴィーア〉
ムソルグスキー/展覧会の絵



冬

林 峰男 & 加藤知子 & 伊藤 恵 室内楽の夕べ

12月10日(日) 6:45 PM

日本を代表する3人のソリストによる夢の共演。チェロの第一人者林峰男が、ショスタコーヴィチ生誕100周年を記念して、最も信頼する仲間であるヴァイオリンの加藤知子、ピアノの伊藤恵と共に贈る特別企画。3人の名手の絶妙なバランスによる室内楽の真髄をご堪能ください。

プログラム

ショスタコーヴィチ生誕100周年記念コンサート
ピアノ三重奏曲 第1番 ハ短調 Op.8
チェロ・ソナタ 二短調 Op.40
ピアノ三重奏曲 第2番 ホ短調 Op.67



チェロ
林 峰男



ヴァイオリン
加藤 知子



ピアノ
伊藤 恵

2007年 四季のコンサート 予定

春 千住真理子 ヴァイオリンリサイタル 4月14日(土)

2歳半よりヴァイオリンを始める。12歳でNHK交響楽団と共演し、15歳の時日本音楽コンクールに最年少で優勝。その後、バガニーニ国際コンクールにおいても最年少で入賞を果たし、国際的な演奏活動を開始。音楽以外にも、テレビ、ラジオへの出演や執筆活動など、幅広いジャンルで数多くのファンをつかんでいます。幻の名器「デュランティ」との運命的な出会いを果たした彼女が奏でる名曲の数々をお楽しみください。

夏 児玉 桃 ピアノリサイタル 6月1日(金)

バッハからメシアンを含む現代作品まで、幅広いレパートリーと豊かな表現力で活躍を続ける国際派ピアニスト。ヨーロッパで育ち、パリ国立高等音楽院を卒業。1991年ミュンヘン国際コンクールで2位(1位なし)に輝く。その後、各地の国際音楽祭に毎年招かれ、リサイタルや室内楽で活躍。また世界のトップクラスのオーケストラや指揮者との共演を重ね、着実にキャリアを築いています。パリ在住。聡明と洗練を兼ね備えた美しいピアノの調べをお届けします。

秋 カール・ライスター クラリネットリサイタル 10月14日(日)

ドイツが生んだ世界の名クラリネット奏者。1993年まで30余年にわたり、ベルリンフィルの第1ソロ奏者を務め、「ベルリンフィルの顔」としてカラヤンサウンドを支えたスタープレイヤー。オーケストラ在職中から貴重なソリストとして、また室内楽奏者として活躍してきましたが、退団後は一層充実した演奏活動を展開し、高い精神性をたたえた円熟の時を迎えています。クラリネットのスーパースターがお届けする本物の感動を是非味わってください!

冬 緑川まり(ソプラノ) & 三原 剛(バリトン) デュオリサイタル 12月予定 12月(土)(水)

今日本で最も注目をあびている緑川まりと三原剛の二人が贈る、贅沢なプログラム。リリカルからドラマティックまで幅広い表現力で目覚ましい活躍を広げる気鋭のソプラノ緑川まりと、バリトン・カヴァリエーレ(騎士的バリトン)と評される、豊かで気品にあふれる大型バリトン三原剛の共演です。瑞々しい二人の美声は、皆様を感動の世界へと誘うことでしょう。

浜松出身の演奏家シリーズ

平尾憲嗣 テノールリサイタル 7月21日(土)

浜松市立北浜中学(旧浜北市)、信愛学園(現浜松学芸)高校音楽科を経て、国立音楽大学、同大学院オペラコース修了。2002年オーチャードホール主催「オペラティックバトル」で第1位。2005年小澤征爾オペラプロジェクト「ラ・ボエーム」のロドルフォ、2006年藤原歌劇団「ラ・トラヴィアータ」のガストン等で絶賛を博す。伸びやかな美声と表現力で、今後の活躍が期待されている人気の若手テノール。藤原歌劇団団員。日本ロッシーニ協会会員。浜松での初リサイタルにご期待ください。

各回共 於：はまホール

★会員の皆様へのお願い★

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内で、テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は、ハガキに住所・氏名・電話・会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛に退会の旨をご連絡ください。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号(旧会員の)をご記入の上、事務局宛にお送りください。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、岡本 ☎053(466)5417までお申込みください。

開場時(開演30分前)から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

— 個人情報の取り扱いについて —

当会は個人情報の取り扱いについて「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令及びその他の規範、ガイドラインを遵守し、個人情報について適切な管理・取り扱いと保護に努めます。